

平成 16 年度 派遣前研修 講座「日本の教育経験・協力経験の活用と隊員が直面する課題」の成果と課題

筑波大学教育開発国際協力研究センター（CRISED）

礒田正美，小原 豊

講座「日本の教育経験・協力経験の活用と隊員が直面する課題」は，今年の講座「役立つ日本の授業研究」に継続するものであり，筑波大学教育開発国際協力研究センターが推進する派遣現職教員支援の一部として，大学の教育協力関係者，学校現場の協力関係者と文部科学省が共同して計画，実施するものである。その目的は，日本の教育経験や協力経験，個別協力体験の紹介を通して，派遣現職教員が現地でより一層活躍する上で生じうる課題とその解決に向けての準備意識を高め，派遣隊員としての適格性を培うことにある。また，派遣現職教員が教育経験を現地に活かす上での課題の明確化と同時に，その課題解決やそこで得た経験や教訓を日本の教育現場に還元する具体的な方法についての共通理解を図った。本講座は3つの研修所にて以下の通り行なわれた。

JOCV 広尾研修センター

実施：平成 16 年 5 月 22 日(土) 13：00～17：00

講師：礒田正美（筑波大学教育学系・助教授），吉田稔（信州大学教育学部・教授），小原豊（筑波大学教育開発国際協力研究センター・産学官連携研究員），浅香伸之（かほく市立宇ノ気小学校・教諭），伊藤美保（横浜市立美しが丘東小学校・教諭），藤井田美保（松山市立石井小学校・教諭）

受講者：現職者 6 名，非現職者 1 名

JOCV 二本松訓練所

実施：平成 16 年 5 月 23 日(日) 13：00～17：00

講師：礒田正美（同上），吉田稔（同上），小原豊（同上），三野光雄（大阪府立成城工業高校・教諭），亀山千景（茨城県立結城養護学校・教諭），馬渡一成（小金井市立南小学校・教諭）

受講者：現職者 19 名，非現職者 2 名

JOCV 駒ヶ根訓練所

実施：平成 16 年 6 月 9 日(水) 15：10～17：00

講師：礒田正美（同上），小原豊（同上），森 保（岐阜県立岐阜工業高等学校・教諭），牛山敏章（長野県箕輪工業高等学校・教諭），石川八重子（市原市立若葉中学校・教諭）

受講者：現職者 39 名，非現職者 41 名

研修は大きく2つの部分に分けられる。第1部では，国際教育協力を携わる大学教員によるものであり，アフリカにおける技術協力プロジェクトからの教訓に基づく「各国の教育風土をふまえた国際教育協力の在り方」，また途上国では複数の学年を一つに編成した学級が多いことをふまえた「日本の教育経験としての複式学級での指導方法」，そして現地での教育活動支援のための web 上での情報活用法の紹介である「e アーカイブによる日本の教育協力経験共有化の方法」を講じた。

第2部は、帰国隊員（14年度1次隊）を講師とするものであり、現地での活動計画の実際やそこから得られた具体的で活きた教訓を受講者と共有することを目指した。同講義では帰国隊員と派遣隊員の間で教育活動上の課題が共有され、日本の協力経験と任地に対応した新しく柔軟な発想が融合し得るような形式で研修が進行した。第2部終了後、講師と帰国隊員、隊員候補生との懇談機会を設けた。講師を務めた各帰国隊員は、各研修所の出身であり、自らの派遣前の姿に重ね合わせて親身に対応しており、懇談時間終了後も講師を中心に幾重にも協力の輪が出来る様子が伺えた。

結論としては、本講座は概ね好評であり、特に帰国隊員による「現地での教育活動とその課題」の評価は高かった。またアンケート記述や直接の懇談機会からは自らの協力経験の共有と今後の活用に対する強い肯定的結果が認められ、総じて、研修の更なる内容的充実への期待を確認した。

講習後行なったアンケートの選択式回答から、主として以下の諸点が認められた。

- ・使用見込みのメディアについては、回答した全隊員がパソコンでの e-mail の使用を希望しており、メーリングリストや電子掲示板、e-アーカイブの利用につながる環境が期待できること。
- ・9割近くの隊員が web サイトや HP の閲覧経験をもつのに対して、それらを購買、作成する経験は3割、自分の HP を持つ隊員や Net meeting の経験者は1割を切っており、隊員のより積極的な情報発信に向けて別途指導が必要であること。
- ・派遣先で試みたい内容は、教材開発や教育評価、授業研究や指導法開発など多岐に渡っており、同時に、派遣先での教育活動上の不安も、語学やカウンターパートとの関係、教科専門力や教材教具の確保など様々なものが伺えた。これらの派遣隊員の問題意識の幅の広さに対応する個別対応型支援や参加組織型支援の充実が課題となること。
- ・約4割の隊員が、派遣先の情報や使えそうな教材の準備を進めており、個人的なつながりから派遣先での問題を相談できる仲間の確保を図っているが、同時に8割近くの隊員が、隊員間や関係者間のネットワーク、相互支援体制の必要性を感じており、自らの経験の共有についても多くの関係者と分かち合いたいという気持ちをもっていること。

またアンケートの自由意見記述からは、アンケート記述に研修の実施時期に対する意見が多々みられた。その殆どは派遣前研修の平日実施を願うものであり、また、新年度が始まり一般隊員向けの派遣前訓練が始まるまでの期間に派遣前研修を開催することが入所後の派遣前訓練の充実を図る上でも、また時間の有効利用にも有意義であることを指摘していた。以下にその記述の1部を示す。

訓練所生活の日曜はリフレッシュの意味でも派遣に向けての準備という意味でも大変貴重でした。次年度も実施される予定でしたら、新年度が始まり派遣前訓練に入るまでの期間にこのような派遣前研修を企画できないものでしょうか。この時期の学校現場はこれからの一年間の計画などの会議がほとんどで、直接協力隊として派遣予定の私たちにとって直接関係がないことが多く、この時期に出張として抜けても何ら問題はありません。この時期に開催できたら皆、時間的にもより有意義に使えと思います。

このように、現職教員向けの研修を派遣前訓練前に計画することの意義が指摘されている。

今後、日本の協力経験やノウハウを派遣前に予め理解し、青年海外協力隊としての専門性を向上し、開発途上国の協力要請によりの確かつ体系的な対応をするアーカイブスの拡充と合わせて、これらの課題にいつそう柔軟に対応する講座を中長期的な視野から継続的に実施していく必要がある。

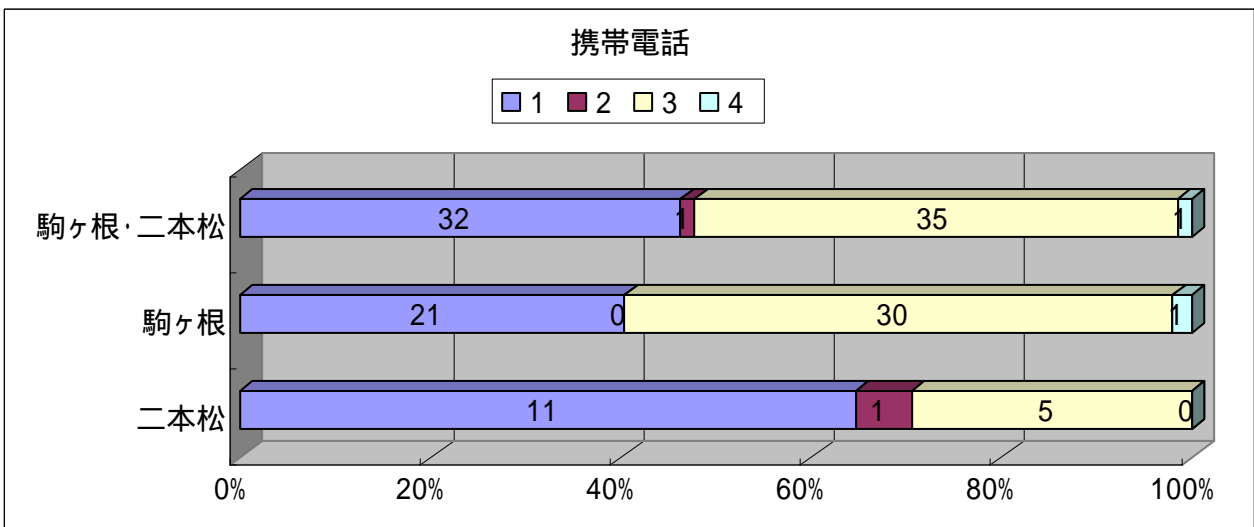
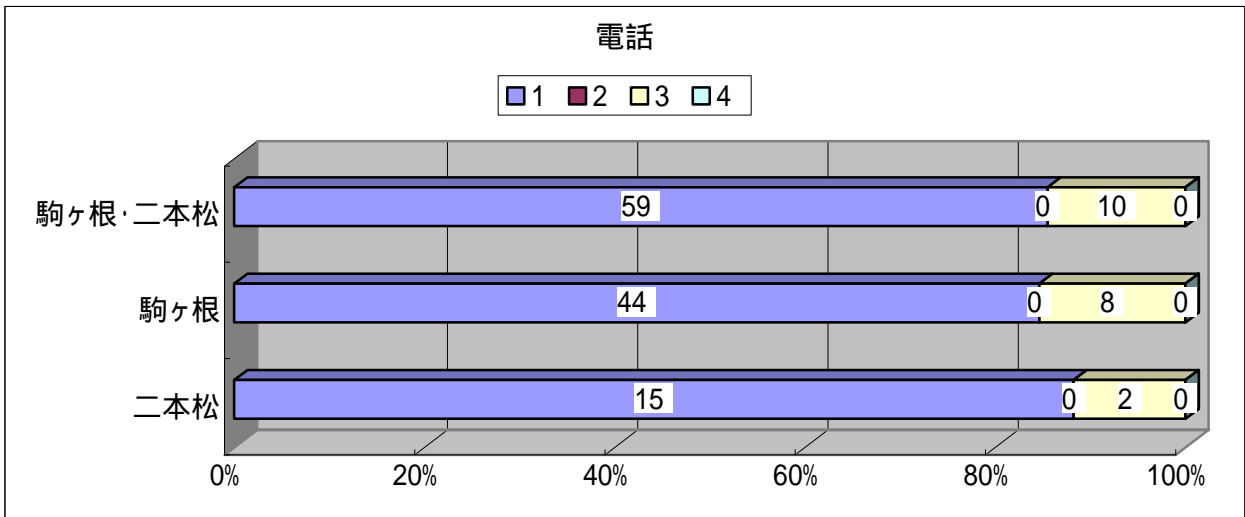
資料 講座アンケート調査結果

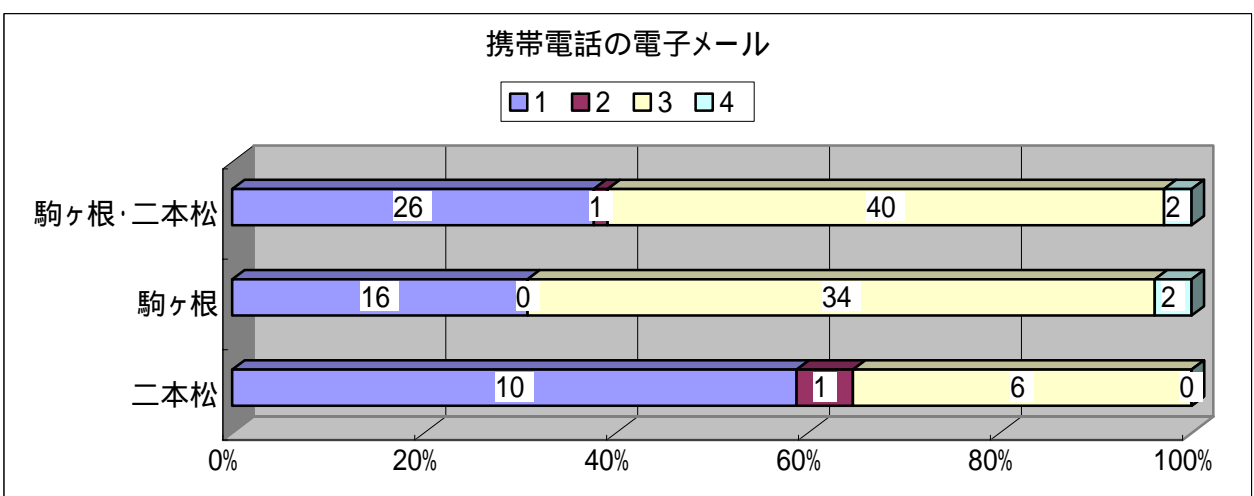
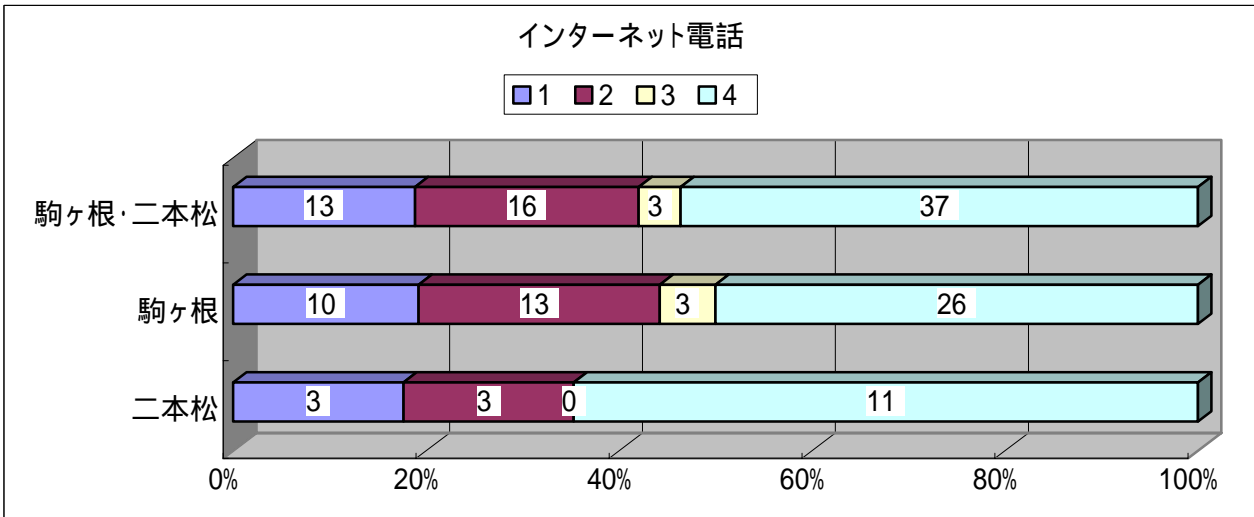
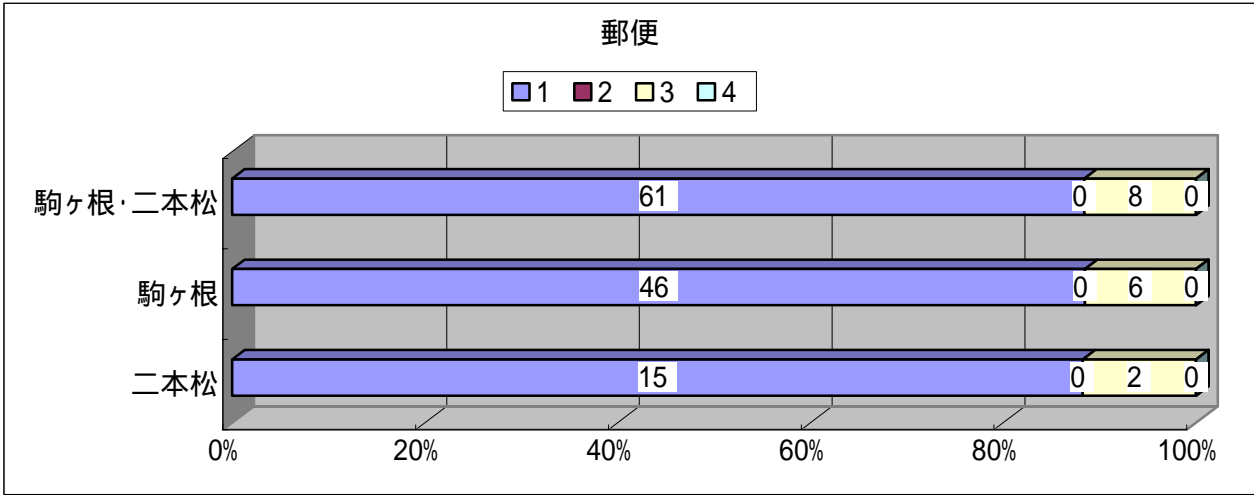
以下、今後の派遣前研修の充実と隊員を支援する上での情報の1つとして、設問とその結果を示す。

1. 普段使っているコミュニケーション手段をお尋ねします。 ×で回答下さい。

以下のグラフは、各通信手段に関する回答を以下の4つに分類し、集計したものである。

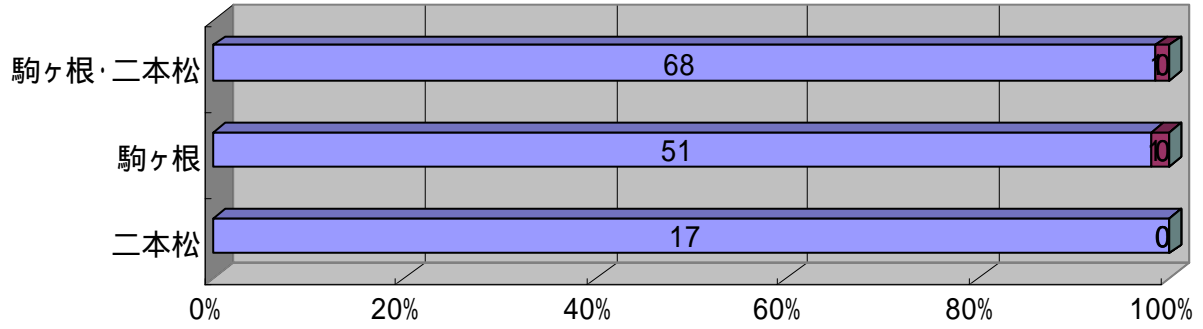
(1)使ったことがあり、派遣先でも使いたい、(2)使ったことがあるが、派遣先で使うかどうか分らない、(3)使ったことはないが、派遣先では使いたい、(4)使ったことはなく、派遣先で使うかどうか分らない





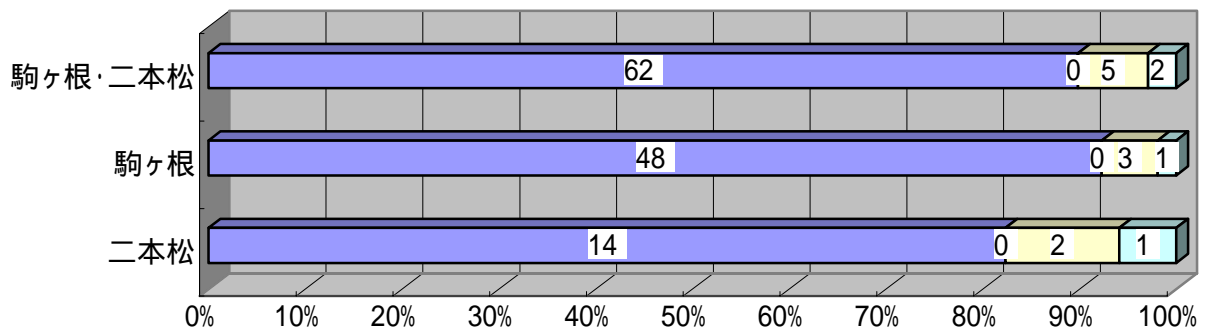
パソコンの電子メール

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4



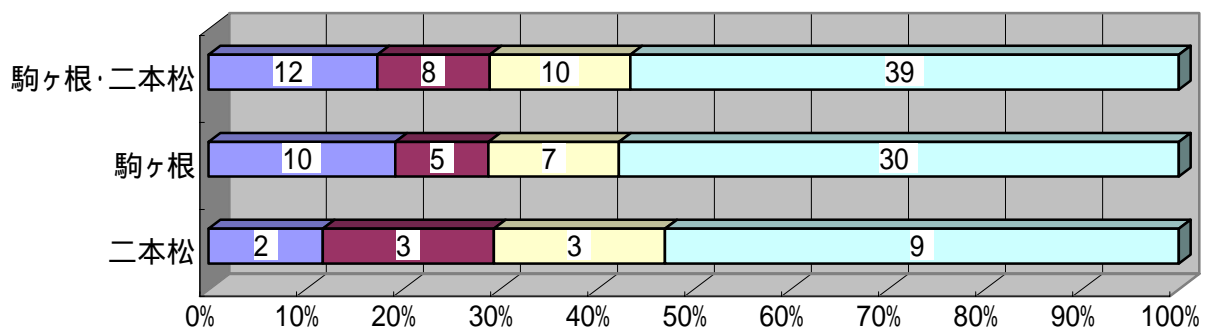
ホームページ・webサイトの閲覧経験

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

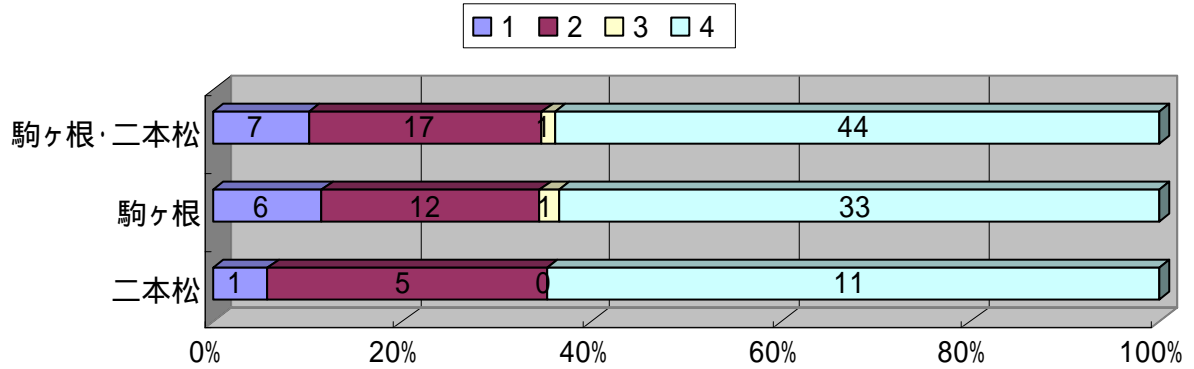


ホームページ・webサイトの購買経験

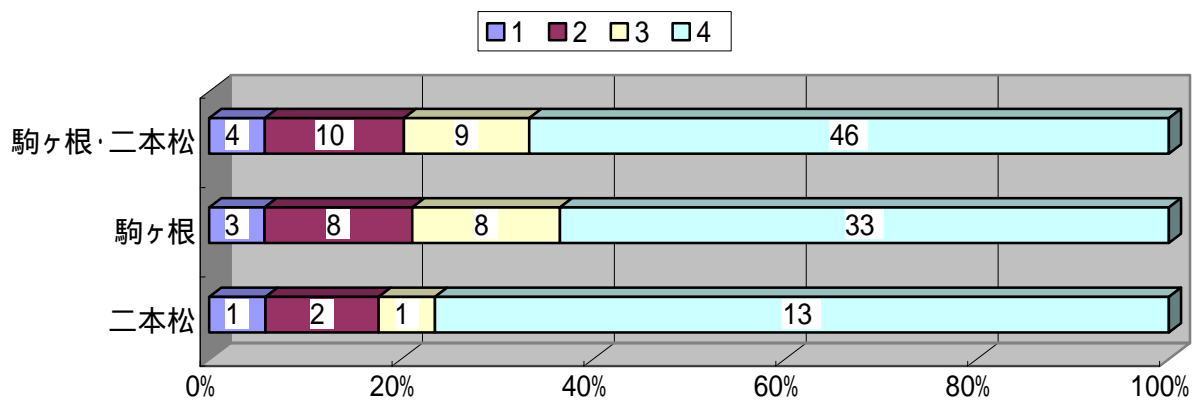
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4



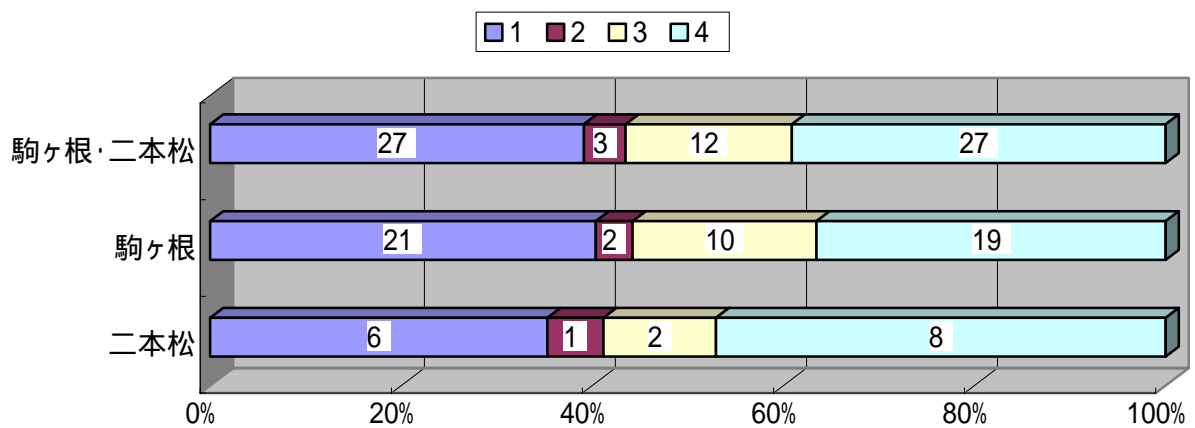
自分のホームページをもっている



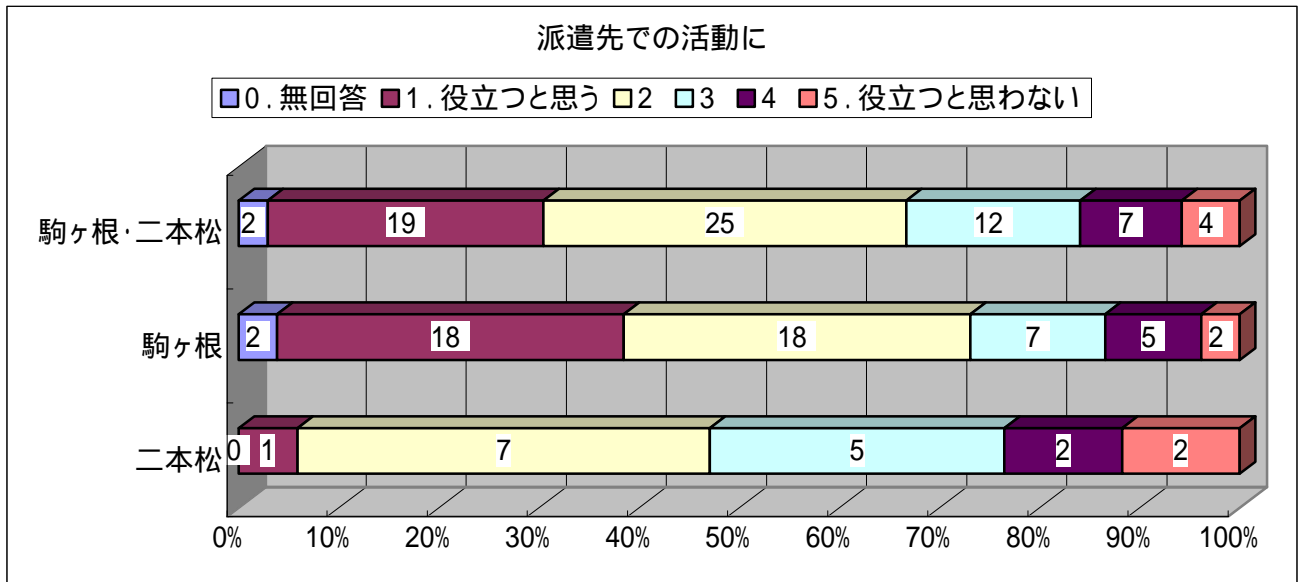
ネットミーティング等のテレビ会議



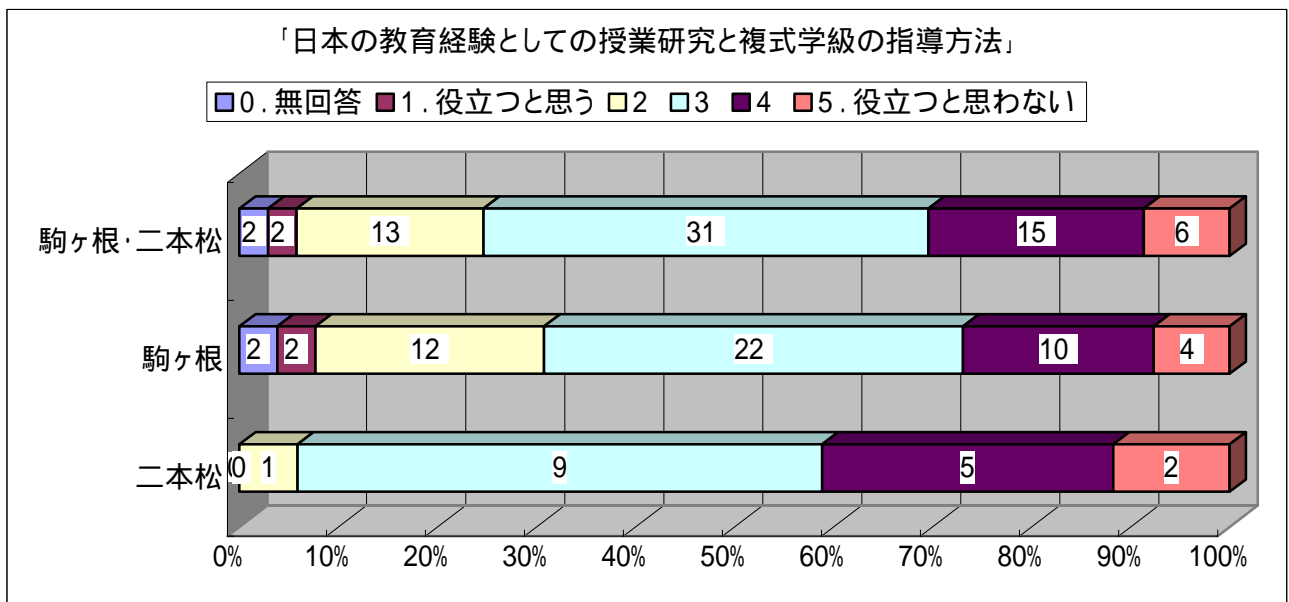
電子掲示板やチャットの利用



2. 全体としてこの講座は、派遣先での活動に役立つと思いますか？

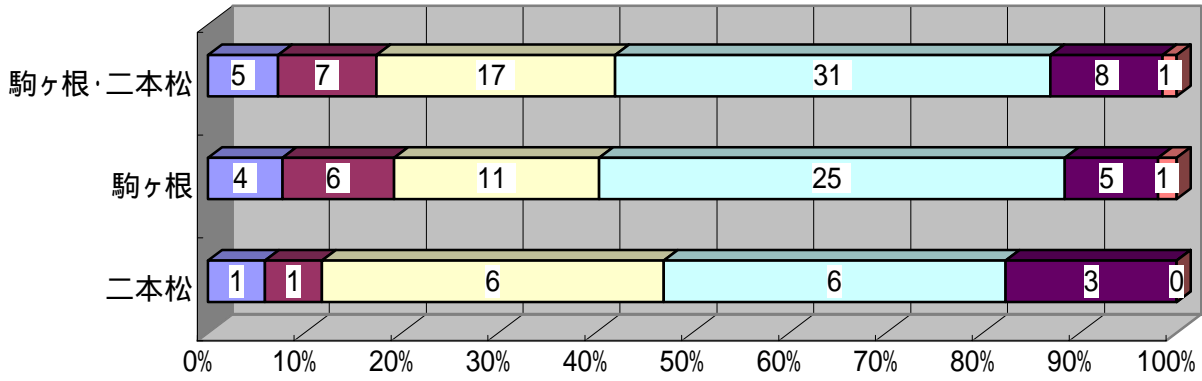


3. 個々の講義について、派遣先での活動に役立つと思いますか？



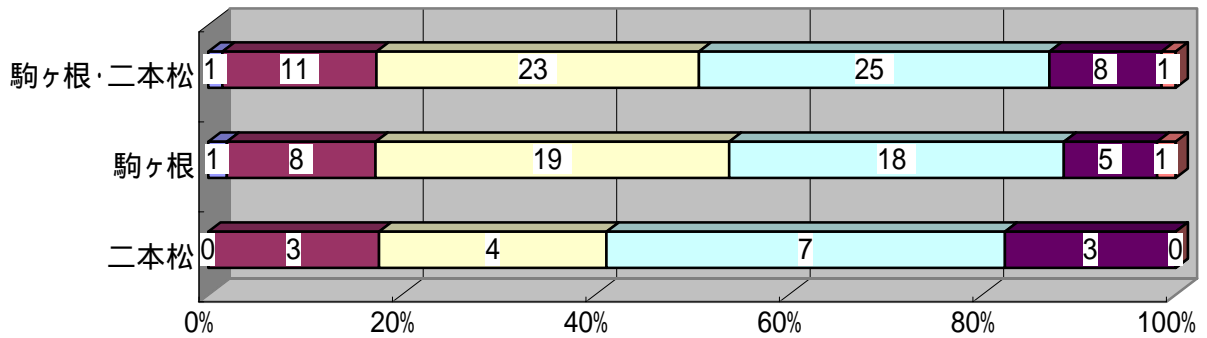
「日本と現地の教育経験の相互活用に関するプロジェクト」

0. 無回答 1. 役立つと思う 2 3 4 5. 役立つと思わない



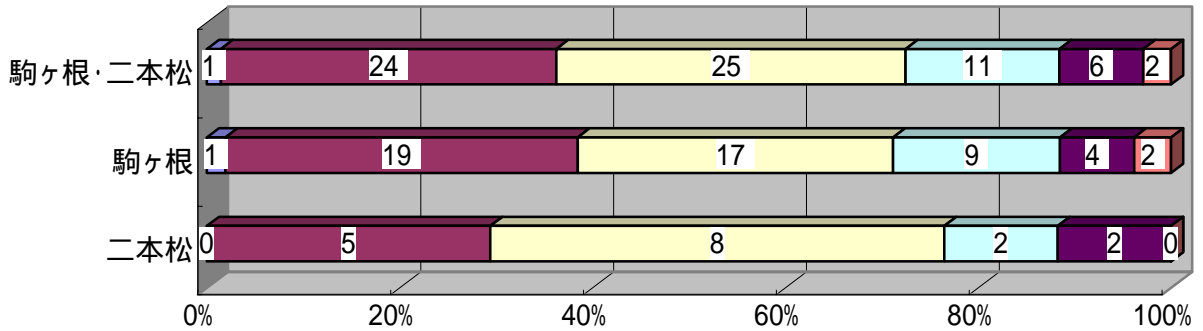
「eアーカイブによる日本の教育協力経験共有化」

0. 無回答 1. 役立つと思う 2 3 4 5. 役立つと思わない



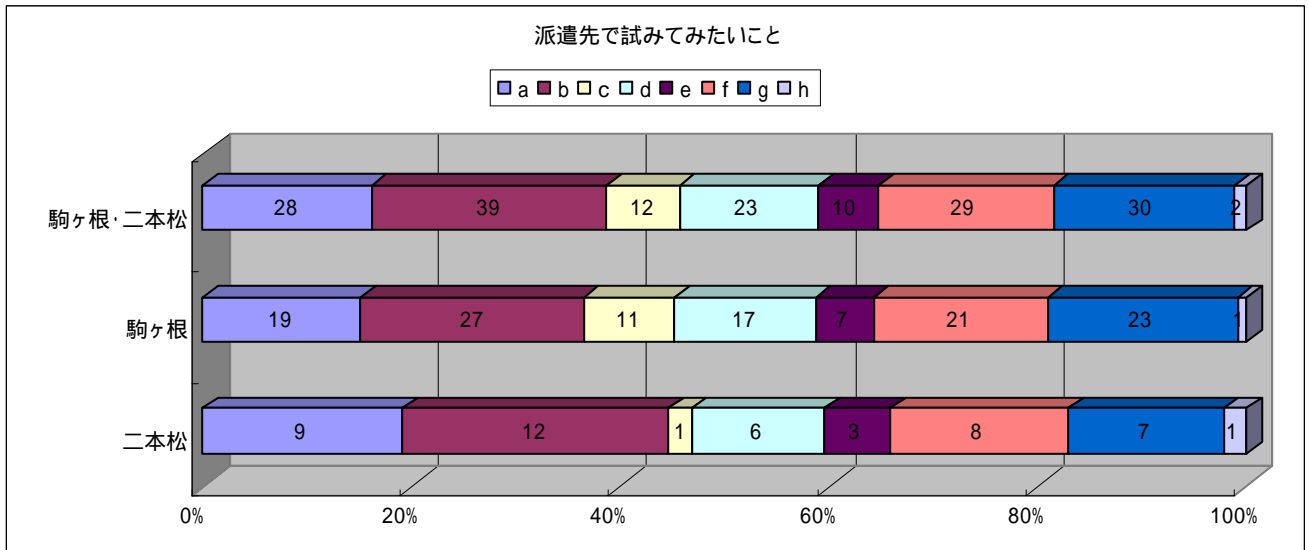
「現地での教育活動とその課題」

0. 無回答 1. 役立つと思う 2 3 4 5. 役立つと思わない



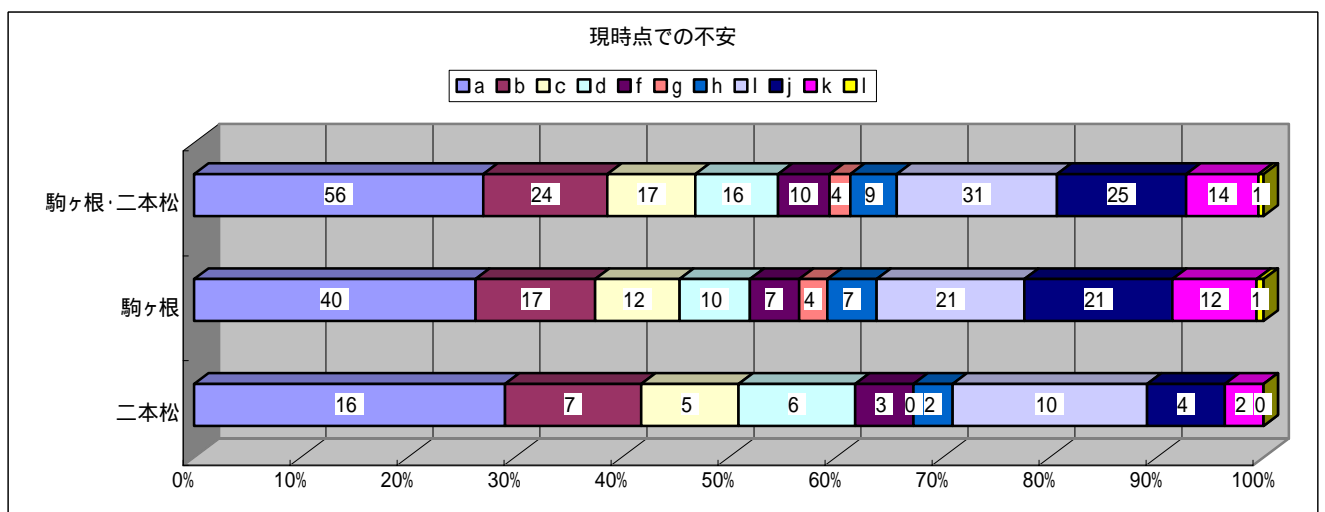
4. 派遣先で試みてみたいことは何ですか？ 下の a ~ f に をつけて下さい（複数可）

- a. 日本と任国の比較, b. 教材開発,
- c. 教育評価（子どもの学習状況の評価や教育課程の評価など）,
- d. 社会学的研究（子どもの学力や教師の指導力と社会の関係など）,
- e. 歴史研究（任国の歴史, 教育協力史など） f. 指導法の開発, g. 授業研究, h. その他



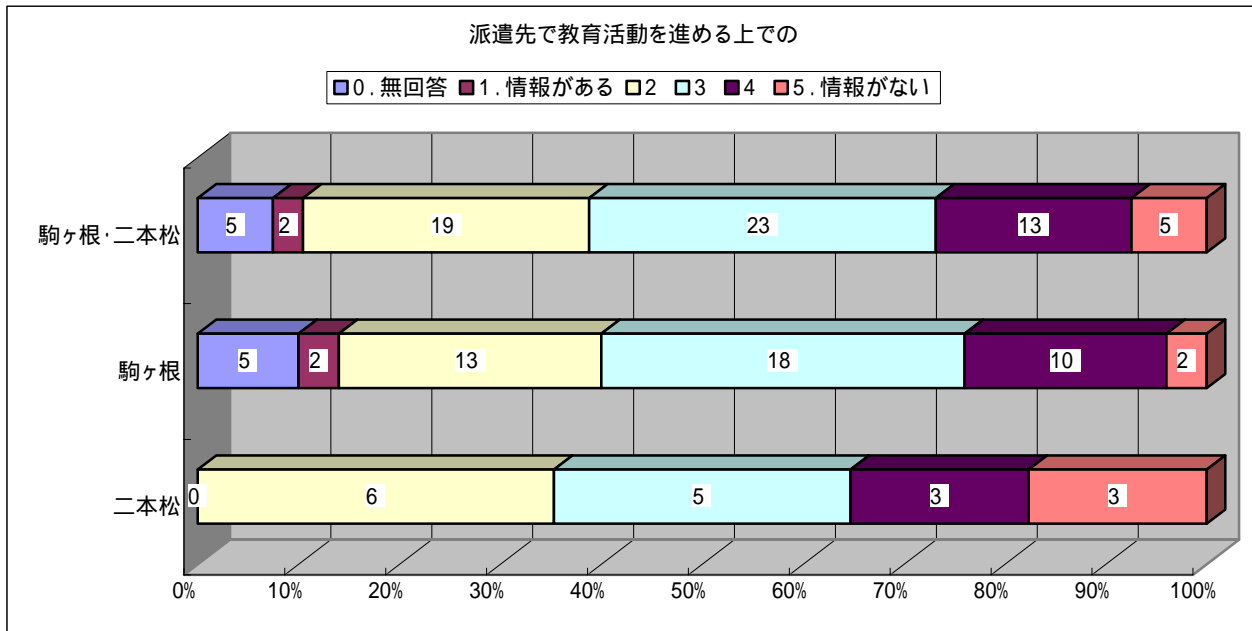
5 派遣先での教育活動にあたり、現時点でどのような面に不安をお持ちですか（複数可）

- a. 語学, b. カウンターパートとの関係, c. 体調, d. 社会・文化のずれ,
- f. 設備・施設, g. 財政, h. 子どもへの対応, i. 教科専門力 j. 教材・教具の確保
- k. 情報の入手, l. その他

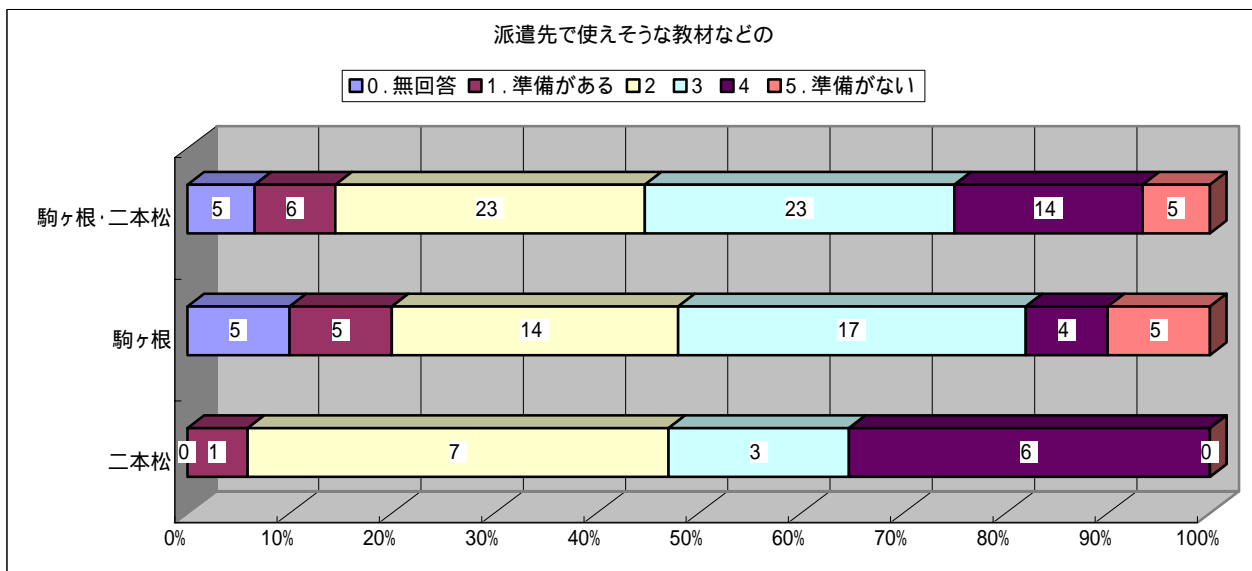


6. 派遣先で教育活動を進めるにおいて、

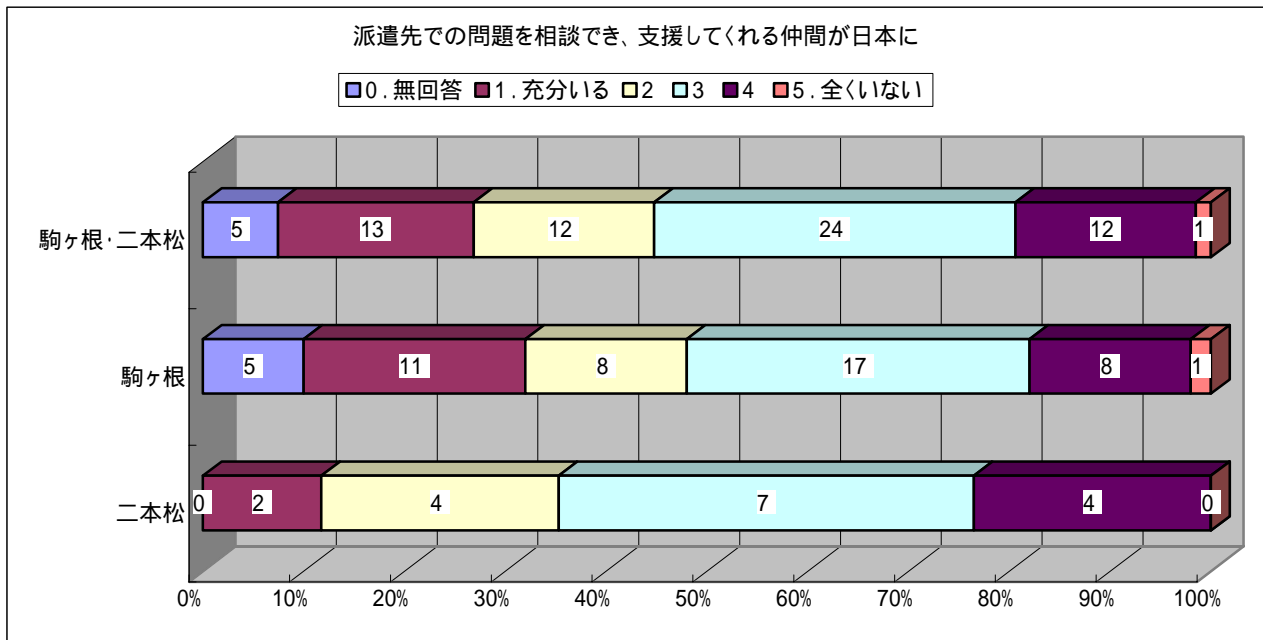
(1) 派遣先で教育活動を進める上での情報がありますか？



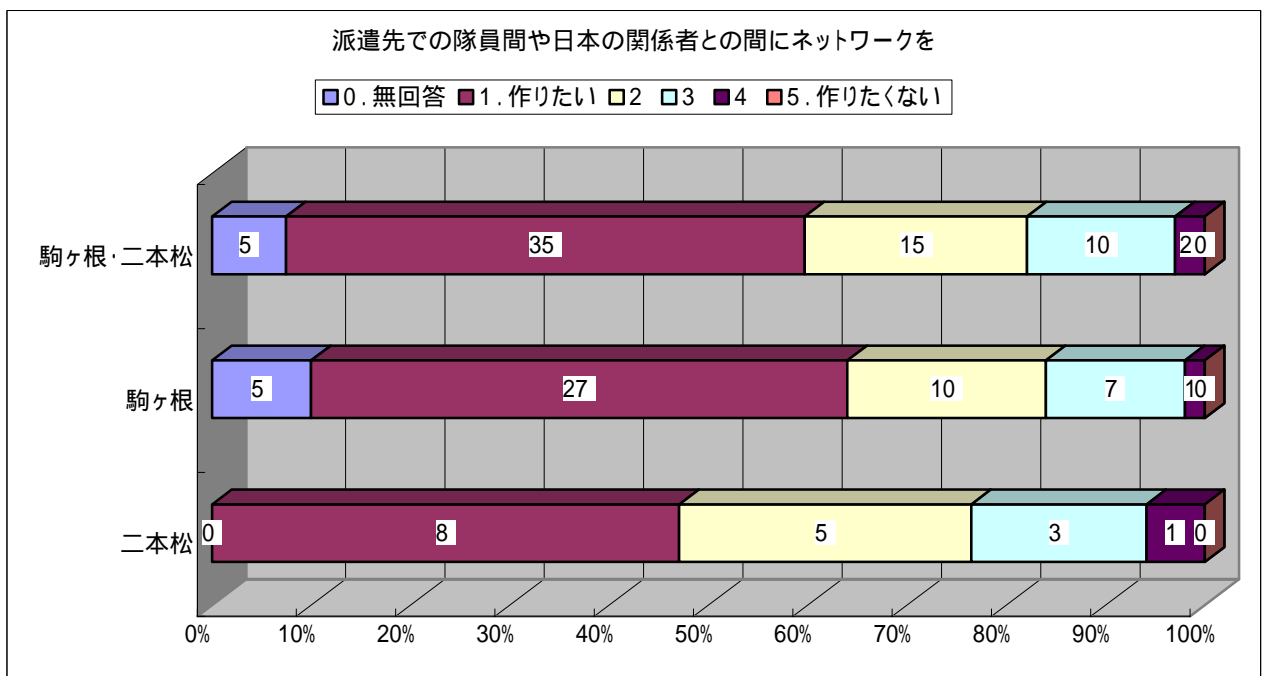
(2) 今までの経験から、派遣先で使えるような教材などの準備がありますか？



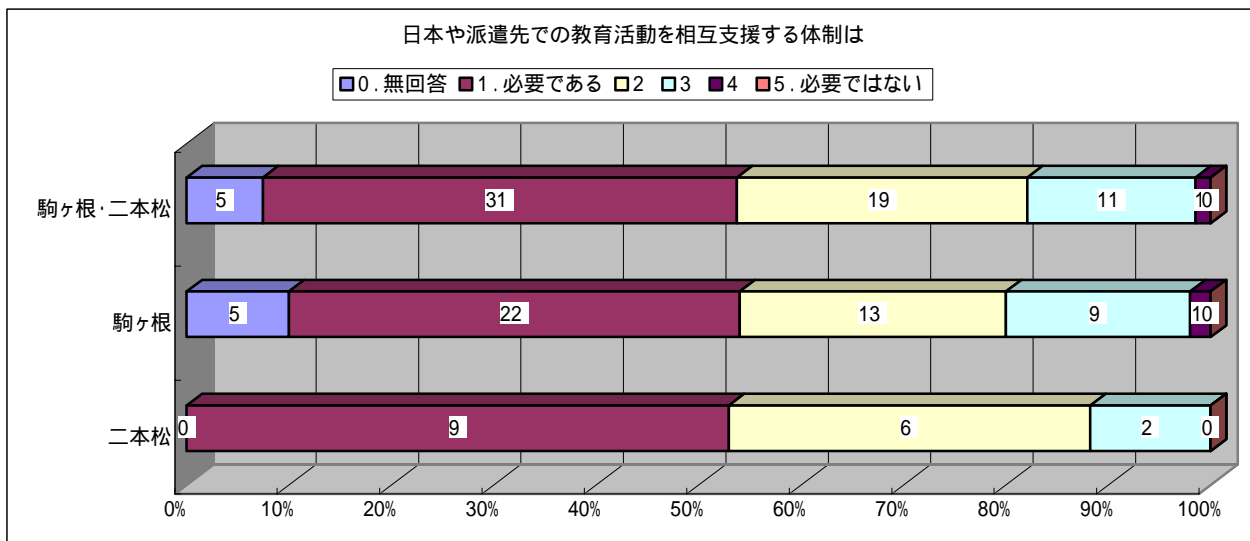
(3) 派遣先での問題を相談でき、支援してくれる仲間が日本にいますか？



(4) 派遣先での隊員間や日本の関係者との間にネットワークを作りたいですか？



(5) 日本や派遣先での教育活動を相互支援する体制は必要だと思いますか？



(6) 自分が派遣先で得た情報や教訓などは、多くの関係者と共有したいですか？

